

2022年度 第45回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2023/3/30】

B決勝

OceanBear's

3

1	—	1
1	—	1
1	—	2
0	—	2

6

群馬ジュニア

PSO

森林 和三

審判：

宇田川 佑里子

OceanBear's	25	SH数	13	群馬ジュニア
	1	速攻数	1	
	10	ST・SB	7	
	6	SH・P誘発アシスト	7	
	33%	GK阻止率	73%	
	2	EX反則数	5	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
OceanBear's	114	47	30	31	27	42	8	9	29	49.1%

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
群馬ジュニア	103	44	19	20	47	51	23	11	30	42.3%

【試合の流れ】

厳しい準決勝のエス水球戦、4P終盤のラストチャンスでのベンチ指示で同点に持ち込み、その流れでPSOを制した三重。派手さはないが、ここぞというところでの勝負強さで決勝戦にまで進出してきた。対する群馬は大会前からの優勝候補筆頭。序盤はミスが目立って心配されたが、準決勝では後半に集中力の違いを見せて、桃太郎カップ準決勝で敗れた石川に完勝。ようやくエンジンがかかってきた形での決勝戦、司令塔の③齋藤の集中力が勝負のポイントになるだろう。この両チームは夏のJO決勝戦の再戦である(群馬15-14三重)。

1P

試合開始わずか10秒で三重⑦山本が先制。勢いづいた三重は果敢にシュートを放つが、群馬も簡単には決めさせない。それどころかチャンスはずっと伺っており、⑤深澤が作り出したチャンスを自らものにした。その後も激しいシュートの打ち合いとなるが、キーパーやポストに阻まれて点数が入らず、三重1-1群馬で第1ピリオド終了。

2P

双方、激しいラリーが続いたあと、インサイドに位置する三重④山崎に⑦山本が丁寧なパスを出し、バックシュート。これが決まり、三重が2-1とリードを奪った。しかし、ピリオド終盤、追いつきたい群馬は④関口から左サイドをドライブしてくる⑥前田へパス。⑥前田が冷静に決め2-2に追いついた。前半は双方がかなり慎重に攻撃を展開し、安易なミスからの失点を相当警戒している様子。どちらかという、両チームがディフェンス重視で、試合は後半勝負という作戦。無理な速攻も抑制し、体力面でも後半勝負を意識した試合運びを感じさせた。

3P

第3ピリオドも、開始してから3分間は両チームともに得点に至らない展開が続いた。慎重な展開の中で、三重はシュートミス、群馬はパスミスが目立ち、思うように攻撃が継続できない流れが続いた。しかし、三重のシュートミスを突いて、群馬の主将③齋藤からセンター⑥前田へとジャストパスが通ってゴールを奪うと、三重も②山内がミドルシュートで応酬。その直後、群馬のセンター⑥前田がディフェンスをかいくぐって得点し、三重3-4群馬と群馬が1点リードで第3ピリオド終了。

4P

三重のパスをインターセプトした群馬はゴール前で構えていた⑥前田がダメ押しゴール。さらに②椎名のシュートフェイクに三重ディフェンスが振られたところで⑧星へパスして6点目を決め、勝負あり。三重3-6群馬と、群馬が夏春連覇を果たした。

夏のJOでは激しい点の取り合いとなったが、今回は一転してディフェンス重視。特に群馬の主将③齋藤が終始、自陣のゴール前を固める形で三重に決定機を与えなかったことが勝因。冷静な試合展開を読んだ中心選手の重要性が勝敗を分けた決勝戦であった。